

平成 28 年 7 月 11 日

## 「国庫支出金のパフォーマンス指標」に関する意見

専門委員 飯田市長 牧野光朗

本日開催の第 6 回WGにつきましては、所用により出席することができず、申し訳ございません。

さて、本日のWGで議題となっている標記に関しまして、以下のとおり意見を申し上げます。

- 骨太の方針 2016 において、「国と地方の連携強化」として「国・地方が軌を一にして取組を推進するよう、国と地方の協議の場をはじめとして、対話を積み重ねながら着実に進めていく」との方針が示されております。以前から申し上げておりますように、地方自治体も巻き込む形で改革の実を上げるためには、国からの「トップダウン」ではなく、地方自治体の自主的・主体的な取組を促すような「ボトムアップ」型のアプローチが肝要であると考えます。
- 地方の裁量度の高い国庫支出金について、「パフォーマンス指標」を活用して交付状況や達成状況（政策効果）を「見える化」し、先進事例・優良事例の横展開を図るには、当該事例の十分な分析と共に、地方のやる気を引き出すことが不可欠と考えます。指標の具体的な設定方法や指標を活用した地方自治体ごとの配分のメリハリの付け方、事務的な負担の度合い如何によっては、却って地方のやる気を削ぎ改革が進まなくなってしまうかという懸念もあります。指標設定の方法や評価結果の取扱（配分への反映等）の検討に当たっては、是非とも地方の意見を十分に聴いていただきたいと思えます。
- 今年度中に仕組み作りをし、来年度から実施に移すというスケジュールと承知していますが、時間のない中であっても、地方の意見を十分に聴いて丁寧な議論・検討をしていただきますよう重ねてお願いするとともに、地方分権改革をさらに推進するという観点から、内容としても、地方の自主性・主体性が生きるものとなることを期待いたします。

以上